

平成28年度 NIE 実践報告

さつま町立柏原小学校

1 本年度のNIE教育の目標

本校は本年度よりNIE研究実践を始めることとなった。そこで、初年度として、自ら学び、主体的に学習に取り組むことができる児童の育成のために、どのような効果的な新聞活用があるかを探ることを本年度の目標に定めた。

2 各学年の目標

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞の記事を読み、自分の考えをもち、表現することができる。

高学年・・・新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えを比べたりして、意見文を書くことができる。

3 研究の実践内容

- (1) NIE教育についての校内研修
- (2) NIEコーナーの設置
- (3) NIEワークシートの活用
- (4) NIEタイムの実施
- (5) 「ひろば」や「子どものうた」等新聞への各種作品投稿

4 研究の実際

- (1) NIE教育についての校内研修

NIE教育実践1年目ということで、どのような実践をこれからしていけばよいのか、職員も分からないところもあった。そこで、南日本新聞社に「よむのび教室」を依頼して職員向けに講話をしていただいた。NIE教育の目的や方向性など具体的な指導方法を教職員で学ぶことができた。また、定期的に校内研修の時間を使って、各学年の取組を紹介、研修し合い、よりよい実践法を協議した。

- (2) NIEコーナーの設置

各種新聞を掲示し、自由に閲覧できるコーナーを設置、児童が進んで読めるようにした。また、児童の作品を掲示するスペースを低学年、中学年、高学年毎に設けて、NIE学習の意欲を高め、学年相互のNIE学習の状況が分かるようにした。



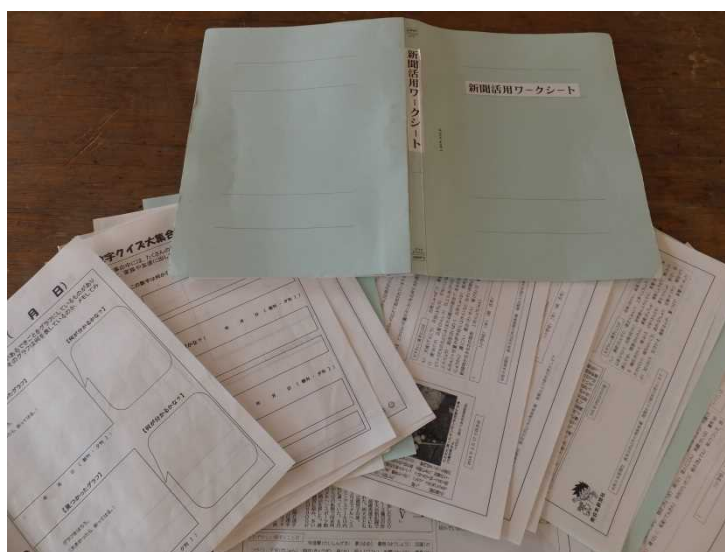
新聞閲覧コーナー



児童作品コーナー

(3) NIE ワークシート活用

新聞活用のワークシートを作成，収集したものをファイリングしておき，どの学年の授業でも活用できるようにした。また，児童一人一人の NIE 学習用ファイルも作り，作品は継続して活用できるようにした。



新聞活用ワークシート

(4) NIE タイムの実施

毎月 1 回，朝活動の時間に「NIE タイム」を設定し，新聞を活用した活動を行った。内容については，それぞれの学年の実態に合わせて，担任と話し合いながら決めるようにした。できあがった作品のいくつかは，NIE コーナーに掲示して，他の学年ではどのような活動をしているのか紹介し合うことで児童の意欲の向上を図った。

ア 1年生実践例「新聞写真アルバム」

新聞にある気に入った写真を選び、切り取って貼る活動。1年生なので、まずは楽しむことを第一に考え、どんな写真でもよいので好きな写真をとにかくどんどん見つけようと声をかけた。児童は楽しそうに取り組み、「NIE タイム」の時間が楽しみになったようである。



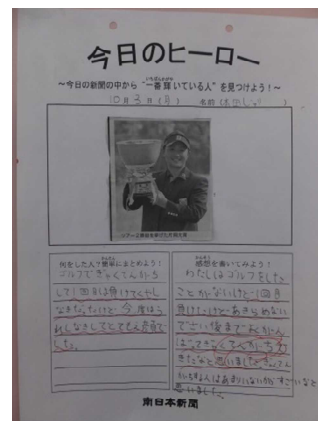
学習の様子



「新聞写真アルバム」ワークシート

イ 3年生実践例「今日のヒーロー」

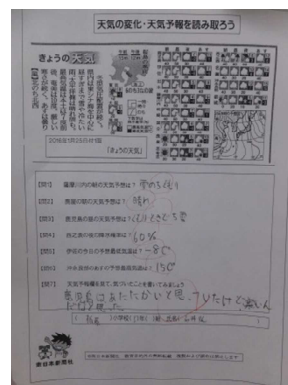
南日本新聞社のホームページからダウンロードしたワークシートで、一日の新聞の中から「一番輝いている人」を見つけて友達に紹介する活動。その人が何をしたのか簡潔にまとめる活動を通して、読む力、書く力の向上にもつながった。



「今日のヒーロー」ワークシート

ウ 5年生実践例「天気予報を読み取ろう」

南日本新聞社のホームページからダウンロードしたワークシートで、記事の内容を読み取る活動。新聞記事がワークシート内にあるので、新聞を準備する手間がいらなくて、短時間で取り組みやすいようであった。



「天気予報を読み取ろう」

(5) 「ひろば」や「子どものうた」等の各種新聞への作品投稿

南日本新聞「ひろば」や「子どものうた」等への作品投稿を積極的に呼び掛け、児童が日記や作文の表現のしかた等を考える機会となった。掲載された児童の作品を校内掲示して、児童の意欲化を図った。また、地区「よむのびコンクール」へ3～6年全児童が応募し、家庭でもNIE教育に取り組んだ。



新聞投稿コーナー

5 研究の成果と課題

成果

- 実践研究1年目であったが、全職員で共通理解、共通実践しながら進めることができた。
- NIEコーナーの設置により、児童が新聞をより身近に感じられるようになった。
- NIEタイムを設定したことにより、定期的に新聞活用の学習を行うことができた。
- 新聞社への積極的な投稿があり、本年度は南日本新聞社から「若い目賞」を受賞できた。

課題

- △ 今年度は朝活動での実践が主だったので、様々な教科・領域で新聞を活用した授業の実践を重ねていきたい。
- △ 新聞閲覧コーナーで新聞を手にとって読む児童が少なかった。児童が新聞を手にとって読める何らかの工夫手立てが必要である。
- △ 家庭と連携したNIE活動の充実をさらに図っていきたい。